平成２２年度病害虫発生予察注意報第１号

平成２２年４月１４日
鳥取県病害虫防除所

注意報の概要

県西部平坦地の砂畑ほ場において、春ネギを中心にべと病の発生が増加している。今後の気象条件によっては、急激に発病が増加する恐れがあるため、防除の徹底が必要である。

病害虫名：ネギべと病

１　対象作物　　ネ　ギ（春ネギ、夏ネギ）
２　発生地域　　県内全域
３　発生時期　　早　い
４　発 生 量　　多　い
５　注意報発令の根拠

（１）本年の現地白ネギほ場におけるべと病の発生時期は平年に比べて早い４月上旬であった。

（２）県西部における４月１３日現在の平均発病株率は４．８％で、４月下旬の平年値（０．２％）と比べても高く、特に春ネギとトンネル栽培の夏ネギで発病が増加している。（表１）

（３）本病は、１５℃前後で降雨が続くと発病が多くなる。気象予報によると、向こう１か月は平年に比べ曇りや雨の日が多いと予想されており、発病に適した気象条件となる恐れがあるため、引き続き発病の増加が見込まれる。

６　防除上注意すべき事項

（１）現在発病が認められるほ場では、直ちにリドミルＭＺ水和剤１，０００倍液、フォリオブラボ顆粒水和剤１，０００倍液、プロポーズ顆粒水和剤１，０００倍液、フェスティバルＣ水和剤１，０００倍液などを散布する。

（２）発病が認められていないほ場においては、ランマンフロアブル２，０００倍液、アリエッティ水和剤８００倍液、ペンコゼブフロアブル６００倍液などによる予防防除を徹底する。

（３）同一成分を含む薬剤は連用しない。また、成分ごとの総使用回数及び収穫前日数に注意して薬剤を選定する（表２、表３）。

表１　県西部白ネギほ場におけるべと病の発生状況（４月１３日調査）

地　点	調査ほ場数	発生ほ場数	発生ほ場率 (%)	発病株率 (%)
境港市	7	2	28.6	1.1
米子市	6	3	50.0	9.1
合計･平均	13	5	38.5 (3.0)	4.8 (0.2)

※（ ）内の数値はH12 年～21 年の4月下旬における平年値

表２　ネギべと病の主な防除薬剤（平成２２年４月１４日現在の農薬登録内容）

薬剤名	希釈倍数	本剤の使用回数	使用時期	含まれる成分	
ジマンダイセン水和剤	600 倍	3 回以内	収穫 30 日前まで	マンゼブ	ー
ペンコゼブフロアブル	600 倍	3 回以内	収穫 30 日前まで	マンゼブ	ー
アリエッティ水和剤	800 倍	3 回以内	収穫 3 日前まで	ホセチル	ー
アミスター20 フロアブル	2000 倍	4 回以内	収穫 3 日前まで	アゾキシストロビン	ー
ランマンフロアブル	2000 倍	4 回以内	収穫 3 日前まで	シアゾファミド	ー
リドミル MZ 水和剤	1000 倍	3 回以内	収穫 30 日前まで	メタラキシル	マンゼブ
フォリオブラボ顆粒水和剤	1000 倍	2 回以内	収穫 14 日前まで	メタラキシル	TPN
フェスティバル C 水和剤	1000 倍	3 回以内	収穫 14 日前まで	ジメトモルフ	銅
プロポーズ顆粒水和剤	1000 倍	2 回以内	収穫 14 日前まで	ベンチアバリカルブイソプロピル	TPN

表３　成分ごとの総使用回数（平成２２年４月１４日現在の農薬登録内容）

成分名	総使用回数
マンゼブ	3 回以内
ホセチル	3 回以内
アゾキシストロビン	4 回以内
シアゾファミド	4 回以内
メタラキシル	4 回以内(種子粉衣は 1 回以内、は種後は 3 回以内)
ジメトモルフ	3 回以内
ベンチアバリカルブイソプロピル	3 回以内
TPN	3 回以内(土壌灌注は 1 回以内、散布は 2 回以内)
銅	-